平成２年度

# 児童・生徒の国際性の育成に関する研究

～国際理解教育実践に向けてのアプローチ～

川崎市総合教育センター 国際理解研究会議

川崎市総合教育センター研究紀要　4：151-166.　1991

# 児童・生徒の国際性の育成に関する研究

## ―国際理解教育実践に向けてのアプローチ―

国際理解研究会議

飯塚東洋雄[1]　杉井真裕[2]　牧田貴子[3]　中橋洋司[4]　長嶺憲二[5]

要　　約

国際化が急速に進展するなか，国際理解教育の果たす役割は，子どもたちに国際社会をよりよく生きるために必要な資質や能力を培わせるものだと考える。

そのためには，国際理解教育の目ざす「求められる子ども像」として設定した『①思いやりのあるあたたかい心を持った子ども，②ちがいを認めて理解しあえる子ども，③主体的に自分を表現できる子ども，④広い視野をもちたくましく生きる子ども』に，迫るためにはどのような手立てで指導していくか，追究することが大切である。

本研究会議では，各学校の教師が子どもたちにどのような内容で，また学年のどの段階で指導していったらよいのかを検討し，指導の目安となる指導の目標・指導内容を設定した。また検証授業を通し領域のどの部分で国際理解教育が成り立つのか，目標や指導内容を整理・分類しながら，その効果的な指導の在り方を追究した。

その結果，国際理解教育の目標に到達するためには，国際性という観点から基本点な人間の生き方を，各教科・道徳・特別活動・行事等学校の全教育活動の中で，意図的・計画的，そして日常的に指導を重ねていくことが「子どもの国際性の育成」につながるものという結論に達した。

キーワード：国際理解教育，国際理解，国際性，日本文化，外国文化，外国語

## 目　次

Ⅰ　研究の主題…… 152
Ⅱ　主題設定の理由…… 152
Ⅲ　研究のねらい…… 152
Ⅳ　研究の方法と内容…… 152
1. 国際理解教育の目標設定について… 152
2. 目標内容一覧表について…… 153
○目標内容例一覧表…… 153
3. 指導内容一覧表について…… 153
○指導内容例一覧表…… 154
4. 授業実践例（小・中学校）…… 162
Ⅴ　まとめと今後の課題…… 166
引用文献・参考文献・指導助言者

[1]川崎市立末長小学校教諭（主任研修員）
[2]川崎市立東小倉小学校教諭（研修員）
[3]川崎市立下沼部小学校教諭（研修員）
[4]川崎市立宮前平中学校教諭（研修員）
[5]川崎市立川中島中学校教諭（研修員）

# Ⅰ　研究の主題

児童・生徒の国際性の育成に関する研究
―国際理解教育実践に向けてのアプローチ―

# Ⅱ　主題設定の理由（詳細は前年度紀要参照）

62年度の本研究会議と川崎市教育懇談会実施の，子どもたちの国際性に関する意識調査によると，子どもたちには国際性に不可欠と考える「謙虚さや相手を思いやる気持ちが，年齢が上がるにつれて減少していく」という傾向が見られた。一方，教師には国際理解教育の必要性を認識しても「何を，どこで，どのように教えたらよいのか」という戸惑いもあった。

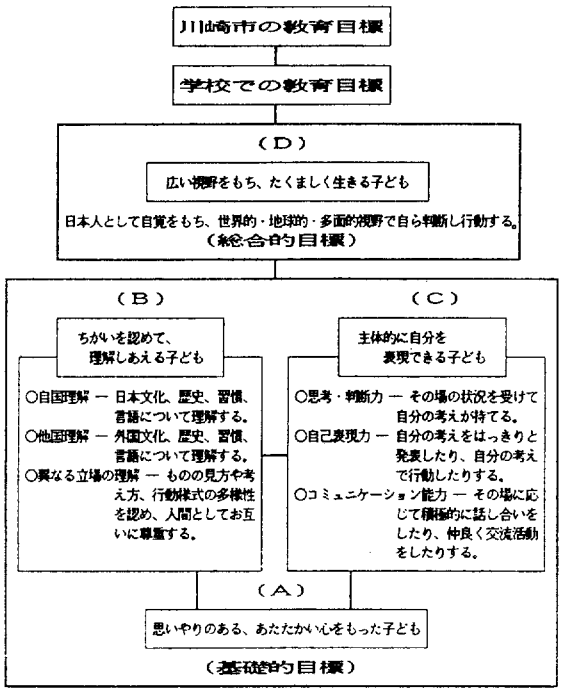
そこで，上記の実態を踏まえつつ，各学校が国際理解教育を実践していく上での，手掛かりになるような指導資料を教師に提示することにした。そして，日常の教育活動を改めて見直し閉鎖性，排他性を取り除き，柔軟性を持った子どもに育てていきたいと考えたからである。

# Ⅲ　研究のねらい

1. 国際理解教育の目ざす，目標の全体構造を明らかにする。
2. 発達段階に応じた，指導の目安を検討し，目標内容例を提示する。
3. 目標に迫るための題材を検討し，指導内容例を作成する。
4. 検証授業を通し，国際理解教育を実践するための，展開例を提示する。

# Ⅳ　研究の方法と内容

## 1. 国際理解教育の目標設定について




国際理解教育を実践していく上で，子どもの国際性に関する実態を踏まえて，この教育が目ざす目標の全体構造について「国際性ある子ども像」を設定した。

○　目標Aは，謙虚な気持ちで相手の考えや行動を理解すること。これは国際理解教育を推進する上で基盤となる資質として設定した。

○　目標Bは，川崎の子どもに見られる「人と同じであればよい」，また「異なったものを排除する」，というような傾向を払いのけていくためにも，人間の存在や他人の価値観を認められる子どもに育てていきたいという考えに立ったものである。

○　目標Cは，その場の状況を受けて自

分の考えや意見を積極的に述べたり，表現したりすることは，今後国際社会に生きていく日本人として，身に付けていかなければならない大切な資質として考えた。

○　目標Ｄは，目標ＡＢＣを総合したもので，国際理解教育の目ざす究極の目標とした。これは日本人としての自覚を持ち，世界的・地球的・多面的な視野でものごとを判断し，行動できる人間に育って欲しいという願いを込めたものである。

上記に示した目標を，学校教育目標の中に明確に位置づけ意図的・計画的に国際理解教育を進めていくことが大切である。そして，各学校で実践を続ける中で，最終的には川崎市の教育目標の一つにある「国際的ではばのある市民」の育成につながっていくものと考える。

## 2.　目標内容一覧表について

「国際性ある子ども像」をより具現化するために，指導の目安になればと考えたものが目標内容一覧表である。これは，子どもの発達段階に合わせ，目標ＡＢＣの内容を小学校・中学校の一貫性を考慮しながら，小学校（低・中・高学年），中学校（全学年）の４段階に分けて構成した。

従って，小学校や中学校のどの段階でどのような資質や能力・態度を培っていくのかを明らかにしてある。（表１）

## 3.　指導内容一覧表について（内容の詳細については，前年度研究紀要を参照）

国際理解教育が目ざす子ども像に迫るために「何を，いつ，どのように指導したらいいのか」，目標に達するための指導内容を小・中ごとに例示したものが，指導内容一覧表である。（表２）

ここでは，国際理解教育を領域として取り扱うのではなく，むしろ機能概念として捉え教科・道徳・特別活動等の全教育活動の中に国際理解の内容を取り入れて指導するものとしている。

各学校で教育課程を編成する場合は，地域の特性や実情を生かし，さらに子どもの実態を把握した上で作成することは言うまでもない。

なお，ここで示す内容の選定に当たっては教科書にある教材を取り上げ，国際理解教育の目標を付加して学習できるようにしてある。その際，各教科目標と国際理解教育目標の関わりをはっきりさせるために，４つの型に分類し指導のねらいを明らかにした。

国際理解と領域との関連（指導案では，●印は国際理解・○印は各教科の目標）

Ⅰ型……指導の目標の中心が，国際理解にあるもの。
Ⅱ型……指導の目標の中心は国際理解ではないが，指導のねらいの一部に国際理解と関連付けて扱うことで，その指導の目標が高く望めるもの。
Ⅲ型……１時間の学習の中に，国際理解の観点をほんの僅かでも扱うことにより，指導効果を高めることができるもの。
Ⅳ型……指導の目標は一見国際理解に結びつかないように見えるが，その指導を徹底することがまさに国際理解の基礎的な能力や態度を養うことに通じるもの。

## 「国際性ある子ども像」に近づくための「目標内容例」一覧表

（表１）

| | | ［A］思いやりのある，あたたかい心をもった子ども | ［B］ちがいを認めて理解し合える子ども | ［C］主体的に自分を表現できる子ども |
|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 低学年 | 生き物や友だちを大切にすることができる<br>・美しいものに，素直に感動できる心を持つ。<br>・友だちと仲良くする。<br>・自分の仕事をきちんとする。<br>・生き物に親しみ大切に育てる。<br>・自分の過ちを素直に認める。 | 身近なもののちがいに気が付くことができる<br>・自分と友だちとの共通点やちがい（顔立ち，背丈，性格等）に気付く。<br>・家族構成や生育歴の似ているところや，ちがっているところを知る。<br>・地域にはいろいろな仕事をして，働いている人がいることを知る。<br>・友達をたくさんつくる。 | あいさつや表現が進んでできる<br>・友達の意見をよく聞く。<br>・身近な人（家族・先生・友達・近所の人達）に，気持ち良いあいさつや返事をする。<br>・みんなの前で，気おくれせず話をする。<br>・みんなと仲良く，いろいろな交流活動をする。 |
| | 中学年 | 友だちと仲よく協力することができる<br>・美しいものに，素直に感動できる心を持つ。<br>・友だちと協力して生活をする。<br>・学級や学校での仕事を進んで行う。<br>・自分の過ちを素直に反省する。 | 異なるものへの関心と理解を持つことができる<br>・友達の長所（特技，能力）に気付き，自分にも取り入れる。<br>・地域の良さや伝統を知り，大切にしようとする。<br>・地方によって，いろいろな暮らし方があることに気付く。<br>・品物の流れを通して，他の地域や外国との結びつきに関心を持つ。 | 自分の考えを発表できる<br>・友達の意見を素直に聞き取り，それと比べながら自分の考えを持つ。<br>・話したいことをまとめ，筋道を立てて話す。<br>・みんなと助け合って，いろいろな交流活動をする。 |
| | 高学年 | 友だちの考えを尊重し，誰にでも優しく接することができる<br>・美しいものに，素直に感動できる心を持つ。<br>・みんな（下級生や学校全体）のために，仕事を進んで行う。<br>・友だちの考えや立場を理解し，誠意を持って接する。 | 異なるものへの関心と理解を広めることができる<br>・友達のそれぞれの個性（感じ方，考え方，表現の仕方，行動のパターン等）に気付き，学び合おうと努力する。<br>・各地や各時代の暮らし方には，ちがいがあることに気付く。<br>・日本人としての誇りを持ち，日本の文化や伝統を大切にしようとする。<br>・日本と関係の深い国や近い国に関心を持ち，世界と結びついていることに気付く。 | 友達の気持ちを考えて発言し，見通しを持って主体的に行動できる<br>・自分の考えと友達の考えをつき合わせ，より良い考えを持つ。<br>・自分の考えをはっきりと発表したり，自分の考えに従って行動したりする。<br>・その場に応じて進んで話し合いをしたり，仲良く交流活動をしたりする。 |
| 中学校 | | 社会の一員としての自覚を持ち，平和を愛し求めることができる<br>・美しいものに，素直に感動できる心を持つ。<br>・勤労を尊び，福祉活動に進んで参加する。<br>・集団のきまりと秩序を重んじ，協力的・建設的に行動する。<br>・平和を愛し，争いのない社会を作ろうとする強い信念を持つ。 | 異なるものへの関心と理解を深めることができる<br>・多様な物の見方や考え方を認め，人間としてお互いに尊重する。<br>・日本や世界の文化，歴史，地理，習慣，言語について理解する。<br>・日本人としての自覚を持ち，伝統の継承と新しい文化の創造に努める。<br>・それぞれの国の共通点やちがい・良さを認め，相互依存や相互協力の大切さに気付く。 | その場に応じた適切な判断や行動ができ，伝達手段としての言語に関心や意欲を持つことができる。<br>・その場の状況を受けて，自分の考えが持てる。<br>・自分の考えではっきりと発表したり，周囲に惑わされず行動する。<br>・その場に応じて進んで話し合いをしたり，仲良く交流活動をしたりする。<br>・言語学習を通して異文化に興味や関心を持ち，積極的に交流活動をする。 |

# 「国際性ある子ども像」指導内容例一覧表　（小学校）　（表２）

A･･･ 思いやりのある、あたたかい心をもった子ども　B･･･ ちがいを認めて、理解し合える子ども　C･･･ 主体的に自分を表現できる子ども　（○印･･･ 主たる目標）　No.1

| 項 | 内容の柱 | 主な題材例 | 関連目標 | 学年 | 指導場面 | 型 | 指導内容（児童の活動・留意点） | その他に考えられる題材例 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| こ | 日本語 | 漢字の音と訓 | Ⓑ C | 4 | 国語 | Ⅲ | 漢字の音と訓の違いを通して、日本と中国のつながりを考える。 | ローマ字、方言と共通語、外来語 |
| と | | ことば遊びを楽しもう | B Ⓒ | 全 | 国語 | Ⅲ | 楽しい詩や早口ことば等を口ずさんだり書いたりする。「マザーグースの歌」にもふれる。 | ことわざ調べ |
| ば | | かたかなで書くことば | B Ⓒ | 2 | 国語 | Ⅱ | 日常何気なく使っている言葉の中に外来語があることを知り、色々な国々にも目を向ける。 | |
| | | ものの名まえ | Ⓑ C | 1 | 国語 | Ⅲ | 一まとめの名前と個々の名前を整理し、果物には外国から来たものがあることに気付く。 | |
| | | 言葉について考えよう | Ⓑ C | 5 | 国語 | Ⅱ | 言葉の感じの違いから漢語や和語について考え、日本語の由来に興味・関心を持つ。 | |
| | 外国語 | 外国語のあいさつ | B Ⓒ | 全 | 朝会など | Ⅰ | 色々な国のあいさつを毎週一国ぐらいのペースで紹介し合い、互いに口ずさむ。 | |
| | | 外国語で教えてみよう | B Ⓒ | 全 | 学活・算数 | Ⅰ | 色々な国の１～５ぐらいの数え方を、時折紹介し合い、互いに口ずさんでみる。 | |
| | | 外国のことばと歌 | A Ⓑ | 全 | 音楽・裁量 | Ⅰ | 外国人児童との触れ合いの場をつくり、外国の挨拶の言葉や歌に親しむ。 | |
| | | ローマ字 | B Ⓒ | 4 | 国語 | Ⅱ | 身の回りにはローマ字で書かれたものがあることに気付かせ、外国とのつながりを考えさせる。 | |
| | 話す | わたしのたからもの | A Ⓒ | 全 | 国語・朝の会 | Ⅳ | 物を見せながら自分の考えや感想を分かり易く述べる。周囲の聞く態度も育てたい。 | わたしのセールスポイント |
| | | 気もちのよいあいさつ | A Ⓒ | 全 | 道徳 | Ⅳ | 挨拶を交わすことによって、周りの人と積極的にかかわり仲良くしていこうとする。 | サルと人間、挨拶の共通性 |
| | | 日直さんの話 | B Ⓒ | 全 | 朝の会 | Ⅳ | 身近な出来事を分かり易く述べ、簡単な質疑応答をし合う。 | |
| 人 | 自分 | 赤ちゃん誕生 | Ⓐ B | 全 | 学活・体育 | Ⅳ | 受精・妊娠・出産の過程を知り、生命の尊重、両親や社会への感謝の気持ちを持つ。 | |
| 間 | | 家族を紹介しよう | Ⓐ B | 低 | 生活 | Ⅳ | 自分の家族を紹介し合い、家族との関係（世話・思いやり等）に気付かせる。 | わたしの小さかったころ |
| 関 | | わたしの記録を作ろう | B Ⓒ | 低 | 生活 | Ⅳ | 生まれてからの成長の記録を作り、友達と似ている点や異なる点に気付く。 | |
| 係 | 友達 | 国内（外）転入児を迎えて | Ⓐ B | 全 | 学級活動 | Ⅰ | 新しい友達の経験談を聞くなどして不安を理解し、友達を温かく迎えるように努める。 | 転入生を迎えて、体験入学児の受入 |
| | | 男女の協力 | Ⓐ B | 中・高 | 学活・体育 | Ⅳ | 男女の体の様子の違いに気付き、男女で協力することの大切さを理解する。 | |
| | | こんな親切みつけた | Ⓐ C | 全 | 学指 | Ⅳ | 身近なところの小さな親切を見つけ、紹介し認め合うことによって、思いやりの心を持つ。 | 花咲き山コーナー |
| | | 係新聞を作ろう | Ⓐ C | 全 | 学級活動 | Ⅳ | グループ内で協力し合って係の新聞を作り、印刷・壁新聞等の形式で発表し合う。 | グループ日記を書こう、名人登場 |
| | | 楽しい全校遠足にしよう | Ⓐ B | 全 | 学級活動 | Ⅳ | お互いの考えを尊重し合い、学年の異なる友達とも仲良く過ごそうとする。 | |
| | | 気もちは同じ | Ⓐ B | 低 | 道徳 | Ⅱ | 挨拶の仕方は違っても、挨拶をする気持ちは世界中同じであることに気付く。 | |
| | | 心のアルバム | B Ⓒ | 4 | 国語 | Ⅳ | 友達の話を聞いて、自分の考えを持ち、友達の前でしっかり発表する。 | |
| 環 | 生物 | 一鉢栽培 | Ⓐ | 全 | 理科・裁量 | Ⅳ | 植物（菊、アサガオ等）の世話を通して、思いやりや生物愛護の心を育てる。 | 虫や小動物の世話、動物の国際交流 |
| 境 | | 季節とくらし | A Ⓑ | 低 | 生活 | Ⅳ | 季節によって自然や生活の様子に違いがあることを知り、それぞれの工夫に気付く。 | |
| | 地球と宇宙 | 地球・宇宙の大きさ | A Ⓑ | 高 | 理科・算数 | Ⅱ | 地球は意外に大きいが、宇宙と比べるととても小さいことを知る。人工衛星からの写真活用。 | 地球って本当にまあるいの？ |
| | | 大陸は動く | A Ⓑ | 5 | 国語 | Ⅲ | 地球の壮大な歴史を知り、自己を見つめ直す。ビデオ「地球大紀行」を活用する。 | 西之島新島、地震の話、キョウリュウの話 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 環境 | 地球と宇宙 | 自然を守る | A (B) | 6 | 国語 | Ⅲ | 自然界のバランスの大切さを知り、薬害や森林破壊等の環境問題に関心を持つ。 | |
| | | 森林喪失 | A (B) | 高 | 社会 | Ⅰ | 世界的規模で進む森林破壊の現状を知り、環境問題や日常生活との関連を考える。 | |
| | | 窓はどこでも南向きか | A (B) | 中・高 | 理科・発展 | Ⅱ | 住宅の窓はいつも南向きとは限らないことを、南半球の国々の生活から知る。 | |
| | | 恐竜滅亡のなぞ | (B) C | 中・高 | 国語 | Ⅲ | 恐竜の滅亡したわけをビデオ教材等から考え、隕石が地球に衝突する可能性を探る。 | |
| | | 北極のシロクマ | A (B) | 中・高 | 社会 | Ⅱ | 地球上で一番大気が汚れている場所は北極であること、大気の大きな流れがあることに気付く。 | |
| | | 国境を越えて広がる汚染 | A (B) | 5 | 社会 | Ⅱ | 世界的規模で起こっている大気汚染などの公害の現状を知り、今後の在り方を考える。 | |
| 日本と世界 | 身近な地域社会 | 給食の野菜・果物産地当て | A (B) | 中 | 学活 | Ⅲ | ダンボール調べをしたグループがクイズを出す。他地域や外国との結び付に気付かせる。 | 工場の原料、材料、製品の流れ |
| | | 多摩川のなしづくり | A (B) | 3 | 社会 | Ⅳ | 川崎の梨づくりの歴史や現在の様子を知る。農家の人々の工夫・苦労等に気付く。 | 花づくり、花卉づくり |
| | | 青い目の市民第一号 | A (B) | 3 | 社会 | Ⅱ | ドイツ人のアウマンさんが大正時代に来て、川崎に住み着いたことを知る。 | |
| | | かわさきのむかし話 | (A) B | 全 | 国語・学活 | Ⅳ | 不知火の松（川崎区）、小倉の龍灯観音（幸区）、鼻取地蔵（高津区）等を味わい、感想を持つ。 | |
| | | がっこうのまわりみち | B C | 低 | 生活 | Ⅲ | 交通安全のために様々な標識があることを知る。安全施設から他地域・外国へ目を向ける。 | |
| | | 町の工場 | B C | 3 | 社会 | Ⅱ | あやとり（外国にもある遊び）で導入し、他地域・外国との結び付きを意識して工場調べをする。 | |
| | | ゆうびんきょくで働く人 | B C | 2 | 社会 | Ⅲ | ポスト作りや郵便局の見学を通して、ポストの色は国によって違うことに気付く。 | |
| | 日本 | たぬきの糸車（日本文学） | (A) B | 1 | 国語 | Ⅳ | たぬきとおかみさんの心の通じ合いを読み取り、温かいぬくもりを感じ取る。 | |
| | | かさこじぞう（日本文学） | (A) B | 2 | 国語 | Ⅳ | 日本の昔話に親しみ、主人公の温かい心を感じ取る。自分たちの生活を昔と比べる。 | 太郎こおろぎ |
| | | おにの話 | A (B) | 3 | 国語 | Ⅳ | 伝統的な行事に親しみ、人々の願いを知る。自分たちの地域の年中行事と比べる。 | |
| | | 水道のルーツ | A (B) | 4 | 社会 | Ⅱ | 外国人技術者パーマーの指導で横浜に水道が引かれたことを知り、国際交流に関心を持つ。 | |
| | | 正倉院 | A (B) | 6 | 社会 | Ⅱ | 中国や遠くペルシャから来た物があることから、古くから国際交流があったことを知る。 | 海を渡った日本人、美術品の旅 |
| | | 武士の世の中 | A (B) | 6 | 社会 | Ⅱ | 幕末の状況は、深く欧米の事情と関わり合っていることを知る。 | |
| | | 咸臨丸とポーハタン号 | (B) C | 6 | 社会 | Ⅱ | 1860年にアメリカに向かった船が二隻あったことを知り、その違いを考える。 | |
| | | 食物と調理 | A (B) | 6 | 家庭 | Ⅱ | 色々な国の食文化を取り入れて、様々な調理方法を工夫していることに気付く。 | |
| | | ごはんとみそしる | A (B) | 6 | 家庭 | Ⅱ | 米の優れている点や、米は生産国により性質も調理法も違うことを知り、世界を意識する。 | |
| | | アメリカに渡った少女たち | (B) C | 6 | 社会 | Ⅱ | 津田梅子の事例を通して、明治新政府の政治への意気込みに関心を持たせる。 | |
| | | これからの日本 | (B) C | 6 | 社会 | Ⅱ | 中国残留孤児問題等を例に日本の戦後の歩みを振り返り、今後の課題を考える。 | |
| | | 影絵「かわいそうなぞう」 | (A) B | 全 | 学芸会 | Ⅲ | 命と平和の尊さを考える。動物を通しても国際交流が行われていることに気付く。 | |
| | | 外国の友達と交歓会をしたら | (B) C | 高 | 特別活動 | Ⅰ | 日本の国土・文化・伝統等を調べたり発表したりして、日本の素晴らしさに気付く。 | |
| | | 日本のなりたち | (B) | 6 | 社会 | Ⅰ | 米づくりは2000年前に大陸から伝わり、全国に広がっていったことを知らせる。 | |
| | | 日本のなりたち | (B) | 6 | 社会 | Ⅰ | 文化の進んだ大陸から技術が伝えられたことを知り、日本に与えた影響を考えさせる。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本と世界 | 日本 | たなばたさま | A (B) | 1 | 音楽 | Ⅳ | 「七夕」の話をすることで、日本の伝統的な行事に親しむ。 | こいのぼり、うれしいひなまつり |
| | | ふじさん | A (B) | 3 | 音楽 | Ⅳ | 外国にも知られている、日本最高の雄大な富士山の様子を思い浮かべ歌う。 | |
| | | ふきのとう | (A) B | 2 | 国語 | Ⅳ | 描写や叙述のすぐれた箇所から、イメージを広げ日本の四季の変化や自然の美しさを読み取らせる。 | |
| | 世界 | アンリー・デュナン | (A) B | 5 | 国語 | Ⅱ | 生命や平和の尊さを説き、世界的な組織を作ったことを知り、国際協調に関心を持つ。 | スイミー、小さな犬の小さな青い服 |
| | | くらしと水 | A (B) | 4 | 社会 | Ⅱ | ドイツ・アフリカ等、各国・各地によって水事情が全く異なることに気付く。 | |
| | | 世界の国々の食生活 | A (B) | 高 | 家庭・社会 | Ⅰ | 食事の仕方（手・箸・ナイフ・フォーク等）が、国・民族によって違うことに気付く。 | 世界の民族衣装調べ |
| | | 世界の歌を歌おう（集会） | A (B) | 全 | 特活 | Ⅰ | 日本や外国の歌を全校で歌うことによって、心の触れ合いや連帯感を持つ。 | 世界の国々の主食・世界の住居調べ |
| | | 世界のジャンケン遊びをしよう | A (B) | 全 | 特活 | Ⅰ | 日本各地や外国のジャンケン遊びにふれる。縦割で遊ぶなどして異質なものにふれる。 | 全校○○タイム |
| | | ハローウインの話を聞こう | A (B) | 低・中 | 学級活動 | Ⅰ | 帰国した友達から新しい学ぶ楽しさを味わい、気持ち良く集会に参加する。 | 民族楽器に親しもう |
| | | NHK名曲アバム鑑賞 | (B) C | 全 | 音楽・特活 | Ⅲ | 世界各地の名曲に耳を傾け、それぞれの国に関心を持つ。 | |
| | | 世界各地のお茶 | A (B) | 高 | 家庭・社会 | Ⅰ | 世界各地のお茶の産地やその飲み方を調べ、人間の共通性や違いに気付く。 | |
| | | 外国生活の様子を知ろう（作文集活用） | (B) C | 全 | 国語・社会 | Ⅰ | 帰国した友達の書いた作文を読み、生活ぶりや習慣等について感想を出し合う。 | |
| | | バンブーダンス | (B) C | 3 | 音楽 | Ⅱ | 三拍子のリズムにのってバンブーダンスを楽しむ。フィリピンへの関心を高める。 | |
| | | ジャマイカン・ルンバ | B (C) | 5 | 音楽 | Ⅱ | リズムを体で感じとり、音楽の流れに溶け込んで表現したり、聴いたりする。 | |
| | | ○○小わくわくランド（全校集会）紹介します「○○○○○」 | (A) B | 全 | 特活 | Ⅲ | 色々な遊び（昔の遊び・外国の遊び）や運動を考え合い、みんなで仲良く遊ぶ。 | |
| | | | B (C) | 高 | 社会 | Ⅱ | 帰国児童の社会科作品を活用し、工業生産と貿易について考える。そして互いに認め合う。 | |
| | | みんなで遊ぼう | (A) B | 全 | 学級活動 | Ⅰ | 韓国・朝鮮のユッノリやアメリカのジャックインボッスを紹介してもらい、遊んでみる。 | |
| | | わらべ歌 | B (C) | 3 | 音楽 | Ⅱ | 「ロンドン橋がおっこちる」や「どうどうめぐり」の歌遊びをし、共通性に気付く。 | |
| | | 日本とイギリス | (B) C | 高 | 社会・学栽 | Ⅱ | エスカレーターの乗り方等を例に、イギリス人と日本人の生活の様子を比べる。 | |
| | | ケニアと日本 | (A) B | 高 | 道徳 | Ⅱ | 帰国児童の作文やビデオをもとに、仕事ぶりや生活の様子の違いを比べてみる。 | |
| | | スーホの白い馬 | (A) B | 2 | 国語 | Ⅱ | モンゴルや馬頭琴について地図や本で調べ、作品の背景をよく知って様子を想像する。 | |
| | | 中国の切り絵 | B (C) | 高 | 図工・社会 | Ⅱ | 中国の切り絵の美しさを知り、また実際に製作することにより児童の興味を高める。 | |
| | | きせつとくらし | (B) C | 1 | 社会 | Ⅱ | いろいろな国の服装から、国によって違った生活をしていることに気付かせる。 | |
| | | 郵便んはたらく人たち | (B) | 2 | 社会 | Ⅱ | 外国郵便について知らせ、世界のどこからでも郵便が届くことに気付かせる。 | |
| | | ガボット | A (B) | 1 | 音楽 | Ⅲ | 外国（フランス）で生まれたおどりの音楽であることを知り、身体表現をしながら鑑賞する。 | |
| | | おおきなかぶ | A (B) | 1 | 国語 | Ⅲ | 挿絵からその当時のロシア（外国）の生活の服装が、日本の服装と違うことに気付かせる。 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本と世界 | 世界 | どうぶつの赤ちゃん | (A) B | 1 | 国語 | Ⅳ | 赤ちゃんが出生した時の様子とそのときの親子の愛情を感じ取らせる。その国にも興味を持たせる。 | |
| | | アイアイ | (B) C | 2 | 音楽 | Ⅲ | アイアイはマダガスカル島に住む猿であることを知り、アイアイや島の様子を想像し表現する。 | |
| | | かえるの合唱 | (B) C | 2 | 音楽 | Ⅲ | 外国で生まれた曲（ドイツ民謡）であることを知り歌う。 | |
| | | 王さま出かけましょう | (B) C | 2 | 音楽 | Ⅱ | アフリカにも自分たちと同じような子供がいることに気付かせ、どんな生活をしているか調べてみたいという関心を持たせる。 | |
| | | 小さなしらかば | (B) C | 3 | 音楽 | Ⅲ | 外国で生まれた曲（ロシア民謡）であることを知り、国の様子を想像する | |
| | | 冬の歌 | (B) C | 4 | 音楽 | Ⅲ | 歌詞に出てくる「ズンズン・・・」はブルガリアで、そりの鈴音の表現に使われる言葉であることを知る。 | |
| | | 伝説の山キリマンジェロ | (B) C | 5 | 音楽 | Ⅲ | 音楽の舞台となっているキリマンジェロや伝説について知り、合奏に親しむ。 | |
| | | エーデルワイス | (B) C | 6 | 音楽 | Ⅲ | ミュジカル「サウンドオブミュジック」について触れ、エーデルワイスがヨーロッパのアルプス地方に咲く高山植物であることを知る。 | |
| | | コンドルはとんでいく | (B) C | 6 | 音楽 | Ⅱ | ペルーのアンデス地方の話を知り、コンドルの飛んでいる情景を想像し合奏する。 | |
| | | 三人の旅人たち | (B) | 5 | 国語 | Ⅲ | 物語から日本と違った自然や生活習慣があることを気付かせる。 | |
| | 国際協調と平和 | 今週のニュースから | B (C) | 高 | 学活・朝の会 | Ⅲ | 新聞やＴＶのニュース等をもとに自分の意見や感想を発表する。世界ニュースに関心を持つ。 | 世界の記事コーナー |
| | | 身の回りの外国製品 | A (B) | 高 | 学活 | Ⅰ | 身の回りの外国製品を調べ、外国との交流や相互依存に気付く。（逆輸入品もある。） | バナナと日本人 |
| | | 裏の種を集めて贈ろう | A (B) | 中・高 | 特活 | Ⅰ | 中国の緑化のために裏の種を集めて贈り、国際協力を実践する。環境問題への関心を持つ。 | 古切手集めをしよう、海外助け合い |
| | | 韓国・朝鮮の踊りや音楽にふれよう | (A) B | 全 | 音楽・裁量 | Ⅰ | 桜本にある「ふれあい館」を訪れ、一番身近な国の文化や歴史にふれる。自らを省みる。 | |
| | | 朝鮮学校との交流 | (A) B | 全 | 特活 | Ⅰ | 池上や末長にある朝鮮学校とスポーツや音楽や給食等の交流をし、互いに認め合う。 | アメリカンスクール等との交流 |
| | | 姉妹都市交流 | A (B) | 全 | 特活 | Ⅰ | ボルティモア、リエカ、溜陽、ウーロンゴン等との交流。（教育使節団の来校、文通等） | 姉妹校交流、日本人学校との交流 |
| | | ウーロンゴン市の小学校との文通 | B (C) | 高 | 学活 | Ⅰ | 文通を通して国際的な理解を図る。英和訳を地域のボランティアや帰国児童に頼む。 | |
| | | 交換教員○○先生を迎えて（集会） | (A) B | 6 | 特活 | Ⅰ | お互いの学校や児童の様子・遊び・生活様式等を紹介し合いながら、交流を深める。 | 外国語クラブ、国際交流コーナ |
| | | ヒロシマ・ナガサキ | (A) C | 全 | 学活 | Ⅰ | 唯一の被爆国であることや核兵器による悲惨さ、平和の尊さに気付き、考えを交流し合う。 | 川崎大空襲 |
| | | オリンピック | A (B) | 全 | 音楽・特活 | Ⅰ | 世界にはたくさんの国があることを知り、国旗や国歌を尊重することの大切さに気付く。 | |
| | | 平和な日本をめざして | (A) B | 6 | 社会 | Ⅱ | ベトナム難民の実態を知り、国際社会に生きる日本人としてどうすべきかを考える。 | |
| | | 店ではたらく人たち | (B) C | 2 | 社会 | Ⅲ | お店で買ってくるものには、外国から輸入されているものがあることに気付く。 | |
| | | 私たちのくらしと食糧生産 | (B) | 5 | 社会 | Ⅱ | 減反する一方で米輸入の拡大を迫られていることを知り、米問題に関心を持たせる。 | |
| | | くらしと工業生産 | (B) C | 6 | 社会 | Ⅰ | 日本製品が経済摩擦を起こしていることから、今後の貿易の在り方を考えさせる。 | |
| | | 世界の中の日本 | A (B) | 6 | 社会 | Ⅰ | 日本では「青年海外協力隊」を組織し、国際援助をしていることを知らせる。 | |
| | | ちいちゃんのかげおくり | (A) B | 3 | 国語 | Ⅲ | 戦争の悲惨さを読み取り、世界平和を願う心情を持たせる。 | |
| | | 野ばら | (A) B | 6 | 国語 | Ⅲ | 国境を越えて心の結び付いた老人と青年から、人間愛・平和・戦争等について考えさせる。 | |

# 「国際性ある子ども像」指導内容例一覧表　（中学校）

A･･･ 思いやりのある、あたたかい心をもった子ども　B･･･ ちがいを認めて、理解し合える子ども　C･･･ 主体的に自分を表現できる子ども　（○印･･･ 主たる目標）

No. 1

| 項 | 内容の柱 | 主な題材例 | 関連 目標 | 学 年 | 指導 場面 | 型 | 指導内容（生徒の活動・留意点） | その他に考えられる題材例 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ことば | 日本語 | 日本語の特色 | Ⓑ C | 3 | 国語 | Ⅲ | 日本語の特色を理解し、正しく・効果的に話したり、書いたりする。 | 新しい文体の誕生 |
| | | 百人一首を読もう | B Ⓒ | 全 | 国語・特活 | Ⅳ | 和歌を通して日本の古人の心をつかみ、百人一首大会をみんなで楽しむ。 | 俳句、短歌、詩を作ろう |
| | | 日本の古典芸能 | Ⓐ B | 3 | 国語・特活 | Ⅲ | 笑いとは何か、そして、笑いを創りだした日本人独特の精神構造を探り、外国の笑いとも比較する。 | 学校寄席 |
| | 外国語 | 外国人と話そう | B Ⓒ | 全 | 特活 | Ⅰ | 修学旅行などの機会に、日頃学んだ語学力を積極的に活かす。 | 英語クラブの活動 |
| | | 英語の第1歩 | Ⓒ | 1 | 英語 | Ⅱ | 身近にある英語から日本語になったものを知り、言葉への興味や関心を高める。 | |
| | | もうすぐ文化祭 | A Ⓒ | 2 | 英語 | Ⅲ | 英語劇を作って発表することによって、協力性や外国語で表現する基礎的な能力を養う。 | |
| | | 英語は世界の共通語 | Ⓒ | 2 | 英語 | Ⅱ | 国際社会の中で、言語の異なる人々が用いる共通語としての英語の役割を理解する。 | |
| | 話す | 対話を豊かに | B Ⓒ | 全 | 国語 | Ⅳ | 身近な話題を選び、自分の考えをはっきりさせて話す。 | 弁論大会、自己紹介をしよう |
| | | あいさつを大切に | A Ⓒ | 全 | 道徳・学活 | Ⅳ | 人間関係の潤滑油となる、あいさつの大切さに気付く。 | |
| | | スピーチ・コンテスト | Ⓒ | 3 | 英語 | Ⅱ | 英語のスピーチで、自分の考えを述べることができるようにする。 | |
| 人間関係 | 自分 | 生命の誕生 | Ⓐ B | 全 | 保健 | Ⅳ | 生命誕生の仕組みを知らせ、生命の尊重と人間平等の精神を培う。 | シンナー中毒の恐怖 |
| | | 自己を知る | A Ⓑ | 全 | 道徳・特活 | Ⅳ | 自我に目覚め、情緒が不安定な時、自分自身を知ることの大切さに気付く。 | |
| | | 進路について考えよう | A Ⓒ | 全 | 学級活動 | Ⅳ | 自己の適切な進路を見極め、そのために現在どのような努力をすべきなのかを考える。 | いろいろな職業 |
| | | 日本人を見つめる | Ⓑ C | 全 | 学級活動 | Ⅰ | 外国人から見た日本（人）のイメージを比較し、日本（人）を見つめ直す。 | |
| | | | | | | | | |
| | 友達 | 国内転入生や帰国児童を迎えて | Ⓐ B | 全 | 学級活動 | Ⅰ | 国内の他地域での体験や帰国生徒の異文化体験を大切にし、温かく迎え入れる。 | |
| | | 礼儀とマナー | Ⓐ C | 全 | 道徳・学活 | Ⅳ | 相手の立場を考えて、エチケットやマナーを守ることの大切さに気付く。 | 外国の食事のマナー |
| | | 合唱コンクール | Ⓐ C | 全 | 音楽・学活 | Ⅳ | 合唱コンクールの練習を通して、協力性を高め、クラスのハーモニーをつくる。 | 文化祭、体育祭 |
| | | | | | | | | |
| 環境 | 生物 | 菊づくり | Ⓐ | 全 | 技術 | Ⅳ | 菊づくりを通して植物に親しみ、自然を大切にする態度を育成する。 | 学級花壇の世話、緑化運動 |
| | | | | | | | | |
| | 地球と宇宙 | スペースシャトル | A Ⓑ | 全 | 理科 | Ⅱ | 宇宙開発の歴史を調べ、広大な宇宙の中の小さな地球や、そこに住む人類の存在の意味を考える。 | 日本人の宇宙飛行士、天動説から地動説へ |
| | | 広がる砂漠 | A Ⓑ | 1 | 社会 | Ⅱ | 地球の砂漠化が進んでいることを知り、豊かな環境を守るよう心がける。 | 身近になった宇宙 |
| | | 消えゆく世界の森林地帯 | A Ⓑ | 全 | 社会 | Ⅱ | 日本で使われる多くの資源が、海外からの輸入に頼っていることを押さえ、それが世界の森林資源の消失に関わっていることに気付く。 | 地球の温暖化 |
| | | | | | | | | |

| 項 | 内容の柱 | 主な題材例 | 関連 目標 | 学 年 | 指導 場面 | 型 | 指導内容（生徒の活動・留意点） | その他に考えられる題材例 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本と世界 | 身近な地域社会 | 川崎港見学 | A (B) | 1・2 | 特活 | Ⅲ | 川崎港の広がりや発展の様子を知り、日本を考える手掛かりを与える。 | 遠足 |
| | | お大師さま | A (B) | 全 | 社会 | Ⅳ | 関東一円を中心に、全国から訪れる観光客、売られているお土産を通じて日本各地との結び付きを知る。 | 郷土史研究クラブ |
| | 日本 | 夕鶴（日本の文学作品） | (A) B | 3 | 国語 | Ⅳ | 登場人物の生き方を読み取り、人間や人生について考える。 | |
| | | 安藤広重の世界 | A (B) | 1・2 | 美術 | Ⅱ | 伝統的な錦絵の美しさを味わい、その画風が洋画に影響を与えたことを知る。 | 日本古来の楽器に親しもう |
| | | 日本で働く外国人労働者 | A (B) | 3 | 社会 | Ⅱ | 円高ドル安を背景に、日本で働く外国人労働者が急増している実態を理解し、今日の日本経済の問題点を考える。 | 海外で働く企業戦士 |
| | | 日本につくられるアメリカの大学 | A (B) | 3 | 社会 | Ⅱ | 地域おこしの一環として、アメリカの大学分校誘致熱が高まっている。地方と世界の結び付きを考える。 | 世界に作られる日本人学校 |
| | | 酔っぱらい天国 | A (B) | 3 | 社会 | Ⅲ | 世界一優れているといわれる日本の治安を通じて、「安全」とは何かを考える。 | |
| | | ゴミの行くえ | A (B) | 全 | 道徳・社会 | Ⅲ | 毎日大量に処分されるゴミの行くえと、再利用や豊かな国ニッポンを見直す。 | |
| | | 幸せって何だろう | A (B) | 全 | 学級活動 | Ⅰ | 日本人と外国人の休暇の過ごし方を比較して、幸福の意味を考える。 | |
| | | 日本国憲法 | (A) C | 3 | 社会 | Ⅳ | 憲法で定められた三大原則（国民主権、平和主義、基本的人権）を尊重する。 | |
| | | クリスマスとお正月 | (B) | 1 | 英語 | Ⅱ | 日本の伝統行事について考え、また日本と外国の正月を比べその違いを知る。 | |
| | | 遣欧少年使節 | A (B) | 2 | 社会 | Ⅱ | 日本で最初にローマ法王に謁見した彼らの一生を通し、当時のキリスト教布教の様子を理解する。 | |
| | | シーボルトの鳴滝塾 | A (B) | 2 | 社会 | Ⅱ | シーボルト塾生が、日本の学術研究の発展に大きな貢献をしたことを理解する。 | |
| | | お雇い外国人 | A (B) | 2 | 社会 | Ⅱ | 日本が近代化を遂げる上で、お雇い外国人の果たした役割を理解する。 | |
| | 世界 | 故郷（外国の文学作品） | (A) B | 3 | 国語 | Ⅱ | 社会の変動の中で生きた、歴史上の人物を読み取る。 | |
| | | 民族と文化 | A (B) | 3 | 国語 | Ⅱ | アイヌ、ベドウィン、エスキモー等様々な民族の異なる文化を認め、生活の知恵を理解する。 | |
| | | 世界の音楽 | A (B) | 1 | 音楽 | Ⅲ | 世界各地の人々の生活や風土の中から生まれた音楽を聴き比べ、特徴を感じとる。 | ベートーベン、「田園」<br>浅草カーニバル |
| | | フランス革命 | A (B) | 2 | 社会 | Ⅲ | １８世紀の市民革命を通して、フランス国民の求めた自由・平等の思想を理解する。 | 独立戦争、産業革命 |
| | | 野球とサッカー | (B) | 全 | 体育・学活 | Ⅰ | 風土・国民性等の違いにより、好まれるスポーツにも違いがあることに気付く。 | オリンピック、記録をつくろう |
| | | 肉食は残酷か？ | A (B) | 1・2 | 家庭・社会 | Ⅱ | 宗教上の違いにより、食べ物の違いやタブーがあることに気付く。 | |
| | | 楽しい夏 | (B) | 1 | 英語 | Ⅱ | 日本と外国の夏休みの過ごし方の違いを調べる。 | |
| | | Jackからの手紙 | (B) C | 2 | 英語 | Ⅱ | シンガポールの外観の理解と、外国への文通相手を求める英文の手紙を出す。 | |
| | | Yujiのカナダ訪問記 | (B) | 3 | 英語 | Ⅱ | カナダの生活習慣や食事のマナー等について調べ、日本との違いを知る。 | |
| | 国際協調と平和 | ５分間スピーチ | B (C) | 全 | 学活・社会 | Ⅲ | 新聞やＴＶの時事問題に関心をもち、いろいろな出来事を発表する。 | |
| | | 食卓を飾る外国の食糧資源 | A (B) | 全 | 家庭・社会 | Ⅰ | 食糧資源の外国依存の実態を調べ、もはや日本一国では生活していくことはできないことに気付く。 | 世界の住居や服装調べ |

| 項 | 内容の柱 | 主な題材例 | 関連 目標 | 学 年 | 指導 場面 | 型 | 指導内容（生徒の活動・留意点） | その他に考えられる題材例 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本と世界 | 国際協調と平和 | 日本の自動車産業 | Ⓐ B | 2・3 | 社会 | Ⅰ | 日本の自動車産業の発展の様子を調べ、あわせて貿易摩擦について考える。 | オレンジ、牛肉の貿易自由化 |
| | | 太平洋戦争と川崎 | Ⓐ C | 全 | 社会・学活 | Ⅱ | 川崎大空襲を調べることにより、戦争の悲惨さに気付き、世界平和に寄与する心を育てる。 | |
| | | アパルトヘイト | Ⓐ B | 全 | 社会・学活 | Ⅱ | 南アフリカ共和国の厳しい人種差別を調べることにより「身近な差別と人権」を考える。 | 在日韓国人、朝鮮人問題 |
| | | ヒロシマ | Ⓐ C | 全 | 社会・学活 | Ⅱ | 唯一の被爆国である日本での、核の悲惨さに気付き、世界平和に寄与する心を育てる。 | |
| | | 姉妹都市交流をしよう | A Ⓑ | 全 | 特活 | Ⅰ | 姉妹都市との文通や教育使節団との交流を通して、外国についての興味関心を高める。 | |
| | | スチューデント・インターナショナルフェスティバル | B Ⓒ | 全 | 特活 | Ⅰ | 川崎在住の帰国児童・生徒たちの交流の中から、異文化体験を学びとる。 | |
| | | 世界の国旗や国歌 | A Ⓑ | 全 | 音楽・社会特活 | Ⅰ | 世界の国々の国旗や国歌を尊重する態度を養う。 | |
| | | 世界のかけ橋 ― 姉妹都市 | Ⓒ | 2 | 英語 | Ⅱ | 川崎の姉妹都市とその事業を調べ、各自が実行できる国際親善は何かを考える。 | |
| | | アンネの日記 | Ⓐ | 3 | 英語 | Ⅳ | 戦争の悲惨さを知り、世界の平和と人間尊重の精神の必要性を認識する。 | |
| | | 米の輸入自由化 | A Ⓑ | 全 | 社会 | Ⅱ | 日本・タイ・アメリカの米の作り方、価格などを比較し日本の進むべき道を考える。 | |
| | | 北洋漁業 | A Ⓑ | 2 3 | 社会 | Ⅱ | 北洋漁業の歴史を通して、日ソ間の問題、200カイリ問題、そして、将来の漁業の在り方を考える。 | |
| | | なぜ捕鯨は禁止になったのか | A Ⓑ | 1 3 | 社会 | Ⅱ | 鯨がどうして環境保護のシンボルになったのかを調べ、異文化を理解し尊重することの難しさに気付く。 | |
| | | 日本の海外不動産投資 | A Ⓑ | 3 | 社会 | Ⅱ | 各国の住宅、土地政策、価格を比較し、日本人がこのような投資に走る理由と影響を考える。 | |
| | | 日本の朝鮮支配 | A Ⓑ | 2 3 | 社会 | Ⅱ | 日中戦争・太平洋戦争下、強制連行や創氏改名等の政策が、今日の在日韓国・朝鮮問題につながっていることを理解する。 | |
| | | わが国の経済協力 | A Ⓑ | 3 | 社会 | Ⅱ | 日本の発展途上国に対する援助の実態を調べ、援助の在り方を考える。 | |
| | | 産業の空洞化 | A Ⓑ | 3 | 社会 | Ⅱ | 企業の海外進出が増加している理由、それに伴う問題点を考える。 | |

## 共通教材――小・中学校

※ なお、小・中学校の共通教材として、次のようなものが考えられる。いずれも、柔軟な発想や多様な思考を育てるのに適した教材である。

| | 主な題材例 | 関連 目標 | 学 年 | 指導 場面 | 指導内容（生徒の活動・留意点） | その他に考えられる題材例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通教材 | 南米の氷と冷蔵庫の氷 | Ⓑ | 小・中 | 理科・裁量 | 違いはどこにあるかを予想させ、発想を磨く。南極の自然についても触れたい。 | |
| | 大粒のザーザー雨と小粒の霧雨 | Ⓑ | 小・中 | 理科・裁量 | 落ちる速さの違いを予想させ、素直に考えることの大切さに気付く。 | |
| | 体の中に海がある | A Ⓑ | 小・中 | 理科・裁量 | おやっということから、人体の神秘さに気付く。 | |
| | 海の中の盆地 | Ⓑ | 小・中 | 社会・裁量 | 海面下で生活する人、風が吹くとかえって暑くなる風土があることなど多様な生活様式あることに気付く。 | |
| | 江戸川乱歩とエドガーランポー | A Ⓑ | 小・中 | 国語・裁量 | 二人の作家の共通性に気付く。読書意欲や国際交流の関心を高めたい。 | |

## 4. 授業実践例

小学校第３学年　社会科学習指導案　　指導者　杉井　真裕

１．単元名　　塚越商店街（私たちのくらしと商店街）
２．単元について　――国際理解の立場から――

現代は人や物の動きが激しく、地域の人々の生活は他地域との結びつきで成り立っている。この「結びつきがあることを知る」ということは自分は自分以外の人と結びついて生きているという認識につながる。逆に言うと他人によって自分は生かされているということであり、国際理解の基本的な部分である。

さらに、買い物の中には外国製品があり、直接私たちの肌に触れる物もある。「私たちの目に触れる商品の中には外国のものが数多く存在する」という認識は「身近なところでも国際化がはじまっている」という児童への意識付けになると考えられる。

したがって、余り大きく国際理解として扱うことは避け、児童が「商店街の商品はいろいろな所から運ばれてくるのだな」「外国からも運ばれてくるのだな」というほどの意識が生まれればよいと考えている。

３．指導計画----------全１９時間

| | | |
|---|---|---|
| 第１次 | 買い物調べの計画を立てる | １時間 |
| 第２次 | 買い物カードをもとに買い物の傾向の調査をする | ２時間 |
| 第３次 | パークシティ商店街を見学し分かったことをまとめる | ３時間 |
| 第４次 | 塚越商店街の見学をし、分かったことを表やグラフにする | ３時間 |
| 第５次 | 塚越商店街をもう一度見学する | ７時間 |
| | ・商店街を見学する | (3時間) |
| | ・商店会の協力と工夫 | (2時間) |
| | ・遠くの地方との結びつき | (1時間)本時6/7 |
| | ・駅前商店街との比較 | (1時間) |
| 第６次 | 塚越商店街のパンフレット作り | ３時間 |

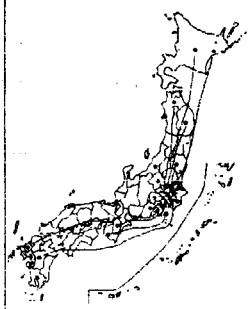
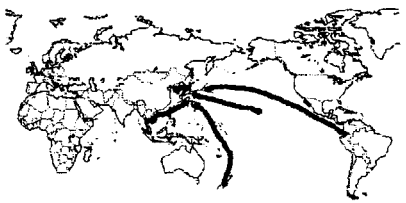
４．本時の指導

(1)本時の目標

●店で売っている品物は遠くの地域の物があることに気付き、私たちのふだんの生活は色々な地域と結びついていることに気付かせる。（関連目標　B）

●段ボールの箱や品物のラベルから送られた来た場所を調べ、発表することができるようにする。（関連目標　C）

(2)展開

| 学習内容 | 学習の流れ（□ --- 主な発問　⬚ --- 説明・指示　・--- 児童の発言や活動） |
|---|---|
| 1.調べる方法を考える。 | 商店街へ行ったらいろいろなお店がありましたね。では、あの品物はどこからきていると思いますか。調べる方法を考えなさい。<br>・その店へ行って聞く。<br>・聞いてそこへ行ってみる。<br>・段ボールを調べると分かる。 |
| 2.段ボールを調べて産地を知る。 | 段ボールを八百屋さんからもらってきました。調べて下さい。（用意したたくさんの段ボールを見せる。）<br>この段ボールは英語で書いてありますね。どこのものか分からないときは○○さんに聞いてごらん。（帰国児童を活かす。いない場合は教師が読んでやればよい。）<br>・北海道のじゃがいもだ！<br>・英語のだ。○○さんに聞こう。<br>・トチギ？<br>・ハワイのパパイヤだって！<br>資料１　段ボール<br>八百屋へ行けば必ず貰える。本実践ではニュージーランド産のキウイフルーツ、エクアドル産のバナナ、タイ産のマッシュルーム、韓国産のキムチ、ハワイ産のパパイヤの段ボールであった。これらと共に国内産のものの段ボールを混ぜておく。児童はとっかえひっかえ調べることができる。 |
| 3.調べた産地を発表し、私たちのふだんの生活はいろいろな地域と結びついていることを知る。 | いろいろなところからきていたみたいですね。外国からも来ていたようですね。まず日本のものから発表してもらいましょう。<br>・和歌山県から柿がきている。<br>・青森県から大根がきている。<br>・群馬県からキャベツ<br>・北海道からじゃがいも<br>資料２　日本白地図・世界白地図<br>書き込みができるようにした白地図。まず、自分たちのいるところ（川崎・日本）を書き込み発表された地名のところから線を引いて視覚的にいろいろなところから商品がきていることを示すとよい。このようにすると、児童は、日本の各地からまた世界の各地からいろいろな商品が送られてくることを理解できる。<br>  <br>  <br>世界のほうはどうなっているでしょうか。発表して下さい。<br>・ニュージーランドからキウイがきていた。<br>・タイからマッシュルームがきていた。<br>・ハワイからパパイヤがきていた。 |
| 4.感想を発表する。 | 感想を聞かせて下さい。<br>・いろいろな国からいろいろなものが来ているのだなと思った。<br>・世界のあちこちからいろいろなものが来ていることにびっくりした。 |

小学校第5学年　音楽科学習指導案　　指導者　牧田　貴子

1．主題名　リズムにのって聴く「ジャマイカン　ルンバ」

2．教材について　――国際理解の立場から――

子ども達は日ごろ意識することなく、いろいろな国の音楽を教材として、歌ったり合奏したりしている。そこで、子ども達に教材曲の生まれた国を知らせることで、いろいろな国の文化に親しんでいることに気付かせ、その曲の背景にある風土にも関心を持たせたいと考えた。

ジャマイカン　ルンバでは、ルンバがキューバで生まれた踊りの曲であることを知らせ、ジャマイカやキューバが西インド諸島にあることを地図や地球儀で確認しスライドやビデオで日本とは異なる風土の国であることを気付かせる。そのうえで、ラテン楽器の音色やルンバのリズムに親しませたい。

3．指導計画 ---------- 全1.5時間

第1次　いろいろなラテン楽器について知らせ、ルンバのリズムを感じとらせる。--1時間 本時

第2次　主なふしや違うふしに気付いて聴かせる。----------0.5時間

4．本時の指導

（1）本時の目標

○　ルンバのリズムを体で感じとり、楽しく聴くことができる。

●　ルンバはキューバで生まれた踊りの曲であることを知り、ルンバのリズムやラテン楽器に親しむことができる。（関連目標 A　B ）

（2）展開

| 学習内容 | 学習の流れ（□…主な発問　⬚…説明・指示　…児童の発言や活動） |
|---|---|
| 1、ジャマイカン ルンバを聴く。 | 先生の大好きな曲を聴かせます。さあ、どんな曲でしょう。　資料1 CD |
| | ・リズムをとりながら聴く |
| ・気付いたことをメモする。 | どんなことに気が付きましたか。もう一度聴かせますから、紙に気が付いたことや分かったことを書いて下さい。 |
| | ・聴きながら気付いたことを書く |
| | 気が付いたことや分かったことを発表して下さい。 |
| | ・音の強いところや弱いところがあった　・木琴やマラカスなどいろいろな楽器の音が聞こえた。・ユニークな曲だ　・明るい曲だ |
| ・曲名を知る。 | よく聴いていましたね。この曲の名前は、ジャマイカン ルンバと言います。作曲したのは、ベンジャミンという人です。<br>ルンバというのはキューバという国で生まれた踊りの曲です。ジャマイカというのも国の名前です。 |
| | キューバやジャマイカはどのへんの国だと思いますか。スライドを見せますから考えて下さい。（スライドを2枚見せる。） |
| | 資料2　スライド<br>1枚は雪や氷におおわれた寒い国のスライド<br>2枚はヤシの木がはえている暖かい国のスライドを用意する。 |
| | ・2枚目だ。明るい曲だから　・マラカスはヤシの木と関係ありそう<br>・暑い国の感じがする曲だ。 |
| | キューバやジャマイカは暖かい国です。西インド諸島という島がたくさん集まっているところにある国です。（地球儀と世界地図で場所を示す。）西インド諸島のビデオがありましたので、どんな国か見てみましょう。 |
| | 資料3　ビデオ<br>西インド諸島の景色、そこに暮らす人々、市場の様子、果物、さとうきび畑 などの映っている観光用ビデオにジャマイカン ルンバをBGMとしてふきこんだもの |
| | ・同じ曲が聞こえる<br>・海がきれいだ<br>・手作りの楽器かな |
| ・ラテン楽器の名前や奏法を知り、模擬演奏しながら聴く。 | ルンバの曲には、いろいろな打楽器が使われています。<br>みんなのよく知っている楽器もありますよ。（箱の中からラテン楽器ーマラカス、ギロ、クラベス、カバサ、カウベル、ボンゴを順に取り出して、名前、音色、奏法を知らせる。） |
| | 今、きかせた楽器の音が聞こえてくるでしょうか。聞こえたら楽器を鳴らすまねをしてみましょう。 |
| | ・聞こえてきた楽器を鳴らすまねをする。 |
| 2、リズム伴奏の練習をする。 | どうでしたか。今度は、本物の楽器を使って演奏してみましょう。<br>リズムの楽譜を貼りますから、みんなで一度練習しましょう。<br>（6種類のリズムパターンを一緒に練習した後でグループに一つ楽器を配る） |
| | ・リズム譜を見ながらリズム打ちをする。 |
| 3、ジャマイカン ルンバの曲にあわせてリズム伴奏をする。 | ジャマイカン ルンバのCDにあわせて演奏してみましょう。先生の合図があったら、楽器をもつ人を交替して下さい。<br>（全員一回は、楽器を演奏できるように交替させる。） |
| | ・CDにあわせて楽器を演奏する。 |
| | この次また練習しましょう。今日勉強した曲の名前は何ですか。 |
| | ・ジャマイカン ルンバです。 |

第１学年　社会科学習指導案　　指導者　長嶺 憲二

1、単元名　西アジア・アフリカ

2、単元について　―― 国際理解教育の立場から ――

西アジアは、今日石油資源のために、世界の国々から注目を集めている。また、中東戦争・アラブ難民問題・イラン・イラク戦争、そして、現在世界中の関心を集めているイラクのクウェイト侵攻など、世界の平和や人類の将来に重大な影響をもつできごとが、ここ西アジアを中心に起こっている。

日本にとっても、石油の大部分をこの地域に依存しており、二度にわたるオイルショックなどの直接的経験をしている。にもかかわらず、アラブは遠く、我々日本人には、理解の範囲を越えているといった声も聞かれる。確かに、西アジアの自然・気候の過酷さ、生活の一から十まで規定しているイスラム教の戒律など、私たちの想像をはるかに越えている。そのことが、アラブ世界の論理行動様式の理解の妨げとなっていると思われる。

本時では、実物資料をもとに生徒の五感に訴えて、アラブ世界を少しでも身近なものとさせることをねらいとしている。

3、指導計画 ---------- 全５時間
イスラム世界の人々の生活 ---------- ２時間（本時１／２）
豊かな石油資源 ---------- １時間
アフリカ中・南部の歴史と産業 -------- １時間
アバルトヘイトとすすむ砂漠化 -------- １時間

4、本時の指導

（1）本時目標

●実物資料などを通して、イスラム世界の自然や風俗の一端を理解させる。（関連目標　B）

●宗教が日常生活と深く結びついていることに気付かせる。（関連目標　B）

（2）展開

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 資料 |
|---|---|---|
| 1、アラブの服装を見て感想を発表する。また、どこの地域でみられる服装か推測する。 | ○アラブの服装を身につけ、アラブの音楽をＢＧＭにながしながら登場し、雰囲気をもりあげる。（白衣などで代用する）<br>○地図帳で位置を確認させる。 | ミュージックテープ<br>世界全図 |
| イスラム世界の一端を実感してみよう!! | | |
| 2、この地域について知っていることをプリントにまとめ、発表する。<br>●気候　●地形　●生活　●宗教<br>●できごと　●その他 | | |
| 3、気候・地形・生活のようすなどを雨温図やスライドなどを通して確認し、自分の想像と同じであったか、違っていたかなど感想を発表しあう。 | ○灼熱と砂嵐の中では、肌を見せない服装が理にかなっていることを考えさせ理解させる。<br>○砂丘の砂に触れさせる。 | ＯＨＰ<br>スライド<br>砂漠の砂 |
| 4、食事の場面を見て次の質問に答える。<br>●どのようにして食べていたのか。<br>●なぜハンバークや肉巻きを食べなかったのか。<br>●人の好意を受けないことに対し、どう感じたか。 | ○場面<br>「教師がアラブ人となり、生徒と二人で食事をする。教師はパンを右手のみで食べる。生徒はお弁当でハンバーグや肉巻きをおいしいからとすすめる。教師はそれを身振り手振りで断わる。<br>●食事の時は右手しか使わない。<br>●豚肉は食べない。 | |
| 5、今日の学習の感想を書く。 | | |

5、備考

◇生徒の感想

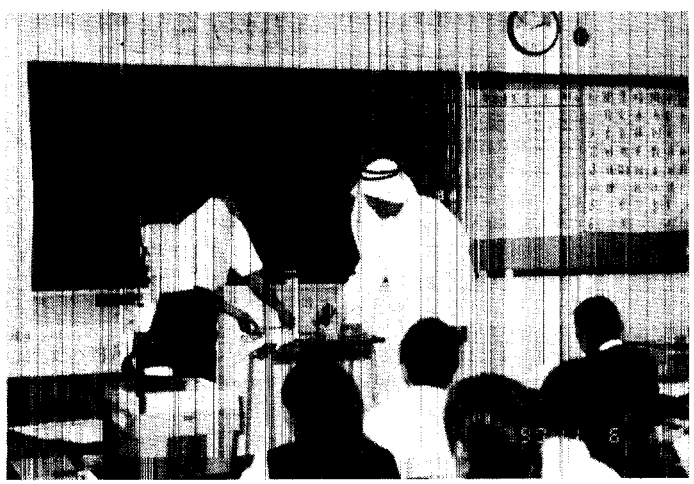
○自然について

●暑いということは知っていたが、４５度、５０度まであがるとは思わなかった。
●砂漠の砂を生まれて初めてさわった。粒がとても小さくさらさらしていた。
●砂漠の砂の色が茶色だとは驚いた。こんなに小さい砂だから砂嵐がおこるのだと思った。

○食事の場面から　～人の好意を宗教上の理由から断わったことに対して～

●やっぱりすすめたら食べた方が言い。
●宗教のきまりは絶対に守るんだなあと思った。
●宗教でそうなっていてももらうだけもらったっていいと思う。相手に失礼だと思う。
●せっかくくれるというのに断わるのは、あげた方からみればけっこういやだけれど、宗教だからしょうがないのかな‥‥。
●最初は、「なんだ」とか「なぜ」と思ったけれど、宗教だからしようがないのではと思った。
●肉を食べないことじたいは、宗教を信仰する人の自由だからいいと思うが、すすめられても断わるのはよくないので、始めから「豚肉は食べられません」と言えばいいと思う。

[参考資料]
福島宣充・横坂訓一・澤木基治　共著　「ラクダからロールスロイスへ」　川崎教育文化研究所
佐々木良昭　「日本人とアラブ人ここが大違い」　ネスコ



中学校第2学年　英語科学習指導案　　指導者　中嶋洋司
Nicolas Moorman

1．題材名　Lesson　9　Jackからの手紙　(TOTAL ENGLISH SECOND EDITION 2)

2．題材について ―― 国際理解教育の立場から ――

日本から海外へ出掛ける日本人が1年間に１０００万人を越え、また海外から日本へ来る外国人も５００万人を越える今日、国際理解教育の必要性が益々高まってきている。国際理解教育は、学校教育における全教科、全領域で取り組まなければならないのは言うまでもないが、新しく改訂された指導要領の中学校の外国語の教科の目標として、「外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を培う」とあり、英語教育そのものが国際理解教育の一部を担っているのである。従って、今までよりも増して国際理解教育を意識した英語の授業を展開する必要がある。そこで本題材では日本との結び付きが強いシンガポールが取りあげられているので、本時は簡単な英語を通してのシンガポールの概観の理解と、コミュニケーション活動を積極的に行なうために、ＡＥＴとの協同授業、そしてゲーム的活動を多く取り入れることにした。また本校は帰国生徒の多い学校であり、どの学級にも数名の帰国生徒が含まれている。本学級でも英語圏からの帰国生徒が５人いる。彼らが、最も目を輝かせ活躍できる場が英語の授業である。彼らが身に付けている特性をできるだけ生かせる様な配慮も必要である。それが他の生徒へもよい影響を及ぼすものと思われる。

3．指導計画 ---------- 全６時間
第1次　簡単な英語を通してシンガポールについての概観を理解させる ---- 1時間（本時）
第2次　形容詞の比較級、最上級（more～,most～）を使った文の運用 ------ 1時間
第3次　接続詞ｗｈｅｎを使った文の運用 ---------- 1時間
第4次　不定詞の形容詞的用法を含む文の運用 ---------- 1時間
第5次　本文の補充・深化（手紙文の形式や手紙文によく使われる表現） -- 1時間
第6次　練習とまとめ ---------- 1時間

4．本時の指導

(1)Ｏｂｊｅｃｔｉｖｅｓ

- To have the students understand the general facts about Singapore through easy English. (Related Aim B)
- To motivate the students to communicate with a native speaker of English. (Related Aim C)

(2)Ｔｅａｃｈｉｎｇ　Ａｉｄｓ

English Karuta(EK), Lyrics Card(LC), World Map(WM), Slides(S), Video Tape Recorder(VTR), Scoresheet(SS), Question Game Sheet(QGS), True or False Card(TFC) Sentence Card(SC)

(3)Ｔｅａｃｈｉｎｇ　Ｐｒｏｃｅｄｕｒｅ

| MIN. | PROCEDURE | ACTIVITIES | | |
|---|---|---|---|---|
| | | JTE | AET | STUDENTS |
| 2 | 1. Greetings & Mini Conversation | "Good afternoon, everyone."<br>"Is anybody absent today?" | "Good afternoon, everyone."<br>"How are you today?"<br>"I'm fine, too, thank you." | "Good afternoon, Mr. Nakahashi."<br>"Good afternoon, Nick."<br>"(Mr.~ or Miss ~) is absent."<br>"Fine, thank you. And you?" |
| 3 | 2. Warm-up | ・Sing YESTERDAY all together. | | (LC) |
| 10 | 3. Review | ・Has the students play English Karuta in groups.<br>・Says the correct answers. | ・Pronounces the English Karuta one by one.<br>A:Last Sunday I went to the Tama River.<br>Why did I go to the river?<br>S:Because you wanted to fish. | ・Play the games in groups. (EK)<br>(SS) |
| 20 | 4. Introduction of Singapore | ・Do the skit.<br>・Explains the difficult words and the expressions. | ・Introduces Singapore using a world map.<br>・Show some slides and VTR. | ・Listen and watch the skit. (WM)<br>(S, VTR) |
| | True or False Quiz | ・Says the correct answers. | ・Gives True or False Quiz to the students.<br>A:Singapore is to the north of Malaysia.<br>J:Now, raise your cards.<br>The answer is false.<br>Singapore is to the south of Malaysia. | ・Raise True Card (white) or False Card (red). (TFC)<br>(SS) |
| | Questions & Answers | ・Helps the students answer AET's questions.<br>・Has the students ask the questions about Singapore to AET. | ・Asks some questions about Singapore to the students.<br>A:Where is Singapore?<br>Mr.~, please come here and show me the place on the map<br>S:Here is Singapore.<br>・Answers the students' questions. | ・Answer AET's questions.<br>・Ask some questions about Singapore to AET. |
| 12 | 5. Question Game | ・Have the students do the Question Game to practice communicating with others.<br>・Explains how to play the game. | ・Helps the students with the game. | ・Do the game individually. (QGS)<br>(SS) |
| 2 | 6. Consolidation | ・Has the students repeat after AET. | ・Reads some sentences about Singapore that is related to the next class. | ・Repeat after AET. (SC) |
| 1 | 7. Farewell | "Good-by, everyone." | "Good-by, everyone." | "Good-by, Mr. Nakahashi & Nick." |

The Question Game

| | |
|---|---|
| 1 Are you a boy? | Yes-man's signature |
| 2 Are you an American? | |
| : (including the questions about Singapore) | |
| 10 | |

(4)Ｅｖａｌｕａｔｉｏｎ

(a) Could the students understand the general facts about Singapore?
(b) Did the students enjoy communicating with others?

## Ⅵ　まとめと今後の課題

### 1. まとめ

異なった思想・宗教・価値観等を持つ人々との間には，完全な一致はあり得ないだろう。これは実際に起きた湾岸戦争でもその一端を垣間見ることができた。しかし，国際人としての基本条件は自分こそが正しいと絶対化しないこと，そして，相手の考えにも耳を傾けどうすれば歩み寄り協力し合えるかを考え求めていく姿勢こそが大切かと思われる。

従って，子どもたちには学校内外の様々な体験の中から，異なった考え方，ものの見方，表現の仕方等を学びながら，自分の思っていることが必ずしも全てに正しいのではないと，いうことに気付かせていく指導も必要かと思われる。

他人や他国が競争相手としてきた時代から，協調し互いに高められていくという共生のパートナーとして，やっていかなければならない時代がやって来た。国際化という言葉の流行現象に惑わされることなく，基本となる人間の生き方を忘れてはならないということを確認したい。

### 2. 今後の課題

子どもたちにどのような考え方，ものの見方，感じ方を学ばせ身に付けさせることが，国際社会に生きる人間づくりに必要なのか，更に突き詰めていく必要がある。そのためには次にあげることを，今後研究すべき課題としたい。

①国際理解教育の日常化を一層図り，それを定着する方法を考えること。

②国際社会をよりよく生きるに必要な資質を養っていくための，教材開発に努めること。

③誰でも活用できる指導資料を作成すること。

④全ての教職員の国際理解への意識が高まるよう，指導者の研修会を可能な限り多く設定すること。

## おわりに

国際理解教育は，口で言うほど容易ではない。しかし，この理念を踏まえて指導を続けることにより，世界の人々の心が一つになっていくとしたらこんな素晴らしいことはないと考える。21世紀の世界の舞台で活躍する子どもたちが，さらに寛容な心を身に付け国際的事象への関心や理解を深めるよう努力することが望まれる。

今回の研究を進めるに当たって，格段のご指導をいただいた東京学芸大学の野田一郎先生はじめ本研究に協力くださった学校の校長先生，川崎市海外帰国子女教育研究会の常任委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

・参考文献（平成元年度　研究紀要参照）

・指導助言者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 東京学芸大学教授 | 野田　一郎 | 川崎市総合教育センター研修指導主事 | 菊池　武熙 |
| 川崎市立稗原小学校校長 | 市川　三郎 | 川崎市総合教育センター教育相談員 | 高橋　静男 |
| 川崎市立宮前平中学校校長 | 吉川　仁 | | |